

「ガバナー補佐続投」

国際ロータリー第2640地区IM1組

ガバナー補佐 見臺 洋一（新宮ロータリークラブ）



ロータリーの素晴らしさは、一つの目標に向かって全員の向かう方向が合致したときの行動力である。

そのさまを体験した地区大会、IMは、ガバナー補佐という肩書き以前の一人のロータリアンとしてのものであって、当日のセレモニーでガバナー補佐であることに気付くくらいのもだったと思う。

地区大会を顧みれば、ホスト、コ・ホストを受けるまでの折衝、ながれを生むまでの作業がかなりのウエイトを占めた。走り始めると委員長の運転技術や、メンバーへの信頼感が中心となる。そんな体験をして一年が過ぎた。

最近のロータリアンは、自己主張して簡単に断る傾向にある、という気がしているのだが、次年度の補佐を決めるためにクラブ訪問を繰り返し説得したのだが実を結ばなかった。

その結果ではないが、継続して受けることやむなしの事態に至ってしまった。「みんなに公平か」ではないと分かっても事情が許さない。そこで2年目となったのだが、会員増強のために僅かでも寄与できないかと腐心したものの、何の結果も出なかった。

ガバナー、パストガバナーにもお願いし、会員増強の道を拓いていただくため、何とか方法を見つけ指導いただきたいと願った。しかし、会員一人ひとりの意識の高揚と行動力がなければ、輝く未来への道を切り拓くことが出来ないのだという現実が横たわっていた。自分の無力さを思い知らされることになった。

ガバナー補佐という立場が、クラブ会員、もしくは理事の方々に理解されていないのではないか、という思いがあった。クラブの事情に精通し、一緒になって考え行動するには、もっとその立場を活かせるよう働きかけをして、努力しなければならないのだと自戒している。

少しばかりの助言や、共に考える姿勢は示せたのかもしれないが、ガバナーを補佐する役割のあちこちに至らなさを感じて終わろうとしている。楽しかったか？と問われれば「それなりに楽しかった」と答え、「勉強になりました」と付け加えたい。

(RI第2640地区マンスリーレター・2006年5月号より)